

記 録

文書番号	S C J 第 2 3 期-290424-23600200-012
委員会等名	日本学術会議若手アカデミー 若手科学者ネットワーク分科会
標題	若手科学者ネットワーク アニュアルレポート2016
作成日	平成29年（2017年）4月24日

※ 本資料は、日本学術会議会則第二条に定める意思の表出ではない。掲載されたデータ等には、確認を要するものが含まれる可能性がある。

若手科学者ネットワーク アニュアルレポート2016

2017 年4 月

日本学術会議 若手アカデミー

若手科学者ネットワーク分科会

目次

はじめに	5
第1回若手科学者サミット開催報告	6
若手科学者ネットワーク参加団体活動報告	7
団体リスト（あいうえお順）：60件	8
化学工学会関東支部若手の会 ChEC-East21.....	10
化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会 Q・NET.....	12
化学とマイクロ・ナノシステム学会（CHEMINAS）若手の会	14
環境技術学会「若手の会」	15
環境資源工学会 若手の会	16
経済学史学会若手研究者育成プログラム	17
血管生物医学会 若手の会	18
細菌学若手コロッセウム	19
細胞生物若手の会	20
錯体化学若手の会	21
資源・素材学会 資源・素材若手ネットワーキング	23
次世代医工学研究会	25
地盤工学会 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会	26
人類学若手の会	27
水産学若手の会	29
生命情報科学若手の会	30
全国英語教育学会 学生支援部	32
炭素材料学会 次世代の会	33
地域農林経済学会 若手の会	35
千葉看護学会 若手研究者育成委員会	37
天文教育普及研究会 若手の会	38
電子スピサイエンス学会 若手の会（SEST 若手の会）	39
糖鎖インフォマティクス若手の会	41
日本育種学会若手の会	42
日本宇宙生物科学会 若手(次世代)研究者育成委員会	43
日本衛生学会若手研究者の会	44
日本疫学会 若手の会	45
日本顔学会若手交流会	47
日本家庭科教育学会若手の会	48
日本看護科学学会 若手の会	49
日本基礎心理学会若手研究者特別委員会	52

日本教育行政学会若手ネットワーク	54
日本教育経営学会 若手研究者のためのラウンドテーブル	55
日本経済学会 若手・女性研究者支援ワーキング・グループ	56
日本ゲノム微生物学会若手の会	57
日本顕微鏡学会 次世代顕微サイエンス若手研究部会	59
日本行動科学学会若手の会	61
日本産業衛生学会 生涯教育委員会 若手研究者の会	62
日本産業技術教育学会 若手の会	63
日本サンゴ礁学会若手の会	64
日本蚕糸学会 若手の会	66
日本心理学会若手の会	67
日本睡眠学会 若手の会	69
日本生態学会キャリア支援専門委員会	71
日本生理心理学会 若手の会	73
日本生理人類学会 若手の会	74
日本草地学会若手の会	76
日本畜産学会若手企画委員会	77
日本農芸化学会 産学官若手交流会（さんわか）	79
日本放射化学会 若手の会	80
日本保健福祉学会若手の会	82
日本南アジア学会月例懇話会	83
日本溶射学会 若手の会	85
農業気象学会若手研究者の会	86
農村計画学会若手ネット	88
微生物若手の会	89
ビーム物理研究会 若手の会	90
溶接学会 若手会員の会	92
若手音声研究ネットワーク	94
Japan National Young Water Professionals.....	95
おわりに	97

はじめに

今回のアニュアルレポートは、2012年から数えまして5回目の発行となるもので、若手科学者ネットワーク分科会が正式に発足してから2回目のレポートであります。今回も、多くの「若手の会」の皆様のご協力によって取りまとめることができたことを感謝いたします。

日本学術会議の第23期から正式な組織になりました若手アカデミーも、この9月末で最初の期を終えようとしております。若手アカデミー設置のための準備組織である「若手アカデミー委員会」から発展的に引き継いだ活動も一応の完成を迎えたと言える状態になったかと思えます。我々、若手科学者ネットワーク分科会も、旧メーリングリストに新たな団体を多数迎えて連絡体制を整え、若手科学者サミットを開催するなど、活動も軌道に乗ってまいりました。

我々の分科会は、国内の若手科学者のネットワークを形成・維持すること、ネットワークを通じて若手科学者の意見収集と問題提起をすること、を目的としています。依然として、若手の研究者を巡っては課題が山積していますが、若手科学者の交流を通じて「未来に責任のある世代」として建設的な議論をし、意見を表明していく場を提供していきたいと思えます。

今回のアニュアルレポートをご活用いただき、他の団体の状況を理解いただいた上で、若手の連携をさらに強化していければと思います。今後とも、より充実した若手科学者のネットワーク構築のために活動して参ります。各団体のさらなるご理解とご協力をお願いします。

日本学術会議 若手アカデミー
若手科学者ネットワーク分科会
委員長 宇南山 卓

第1回若手科学者サミット開催報告

2016年7月10日の午後、若手アカデミー（若手科学者ネットワーク分科会）が第1回若手科学者サミットを日本学術会議において開催した。若手科学者サミットは、若手の会組織間及び研究者個人間の学術交流を目的として開催され、今回のサミットはポスター発表会の形式をとることとした。各学協会の若手の会からポスターを募り、若手の会の紹介、そして紙面に余裕があれば発表者個人の研究も盛り込んだ内容を1枚のポスターにまとめて頂いた。

当日は午後1時より日本学術会議講堂で若手アカデミー（若手による学術の未来検討分科会）主催のシンポジウム「融合を問う：学問の消滅と生成の系譜学から」が開催されており、その途中から同時並行の形で若手科学者サミットを開いた。午後3時20分、宇南山卓若手科学者ネットワーク分科会委員長の開会の挨拶に続いて、自己紹介を兼ね、ポスター発表者全員が若手の会の紹介を含むフラッシュトークを行った。その後ポスター発表を開始し、和気藹々とした雰囲気の中、約1時間の発表時間は瞬く間に流れ、名残惜しくも午後4時半前後に閉会となった。

今回、10の学協会の若手の会からポスター発表の応募があった。日本顔学会若手交流会、日本行動科学学会若手の会、日本教育行政学会若手ネットワーク、日本心理学会若手の会、Japan National Young Water Professional、日本基礎心理学会若手研究者特別委員会、化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会、日本家禽学会若手幹事会、血管生物若手研究会、疫学の未来を語る若手の会（受付順）以上の10の若手の会から12件のポスター発表の申込みがあり、当日11件の発表が行われた。

若手科学者サミットの招集に当たっては、若手アカデミーの前身組織である若手アカデミー委員会の構築した若手科学者ネットワーク旧メーリングリストを主として活用した。募集当時、若手アカデミーとして改めて新メーリングリストを準備中であったので、新メーリングリストへ新規登録申込みをしてくださった方にもサミット開催を通知した。2016年7月中旬時点で、101の若手の会からメーリングリストへの参加の希望が出され、旧メーリングリストの82団体を上回っていた。2017年4月初旬時点では、200以上の団体が登録されている。2017年6月には第2回の若手科学者サミットの開催が予定されており、ポスター発表会も再び予定される。今後も若手科学者ネットワークの有意義で活発な利用を図りたい。

日本学術会議 若手アカデミー
若手科学者ネットワーク分科会
竹村仁美

若手科学者ネットワーク参加団体活動報告

若手科学者ネットワーク アニュアルレポート 2016 の発行に際し、参加団体に活動内容を紹介するレポートの作成について、以下の 8 項目に対する回答を依頼した。

- 1) 若手の会名称
- 2) 代表者の氏名、所属機関、職位等
- 3) 構成メンバー、人数
- 4) 関連のある学協会名称
- 5) 若手の会のミッション
- 6) 活動内容
- 7) 若手の会の課題
- 8) 若手科学者ネットワークに期待すること

団体リスト（あいうえお順）：60件

化学工学会関東支部若手の会 ChEC-East21
化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会 Q・NET
化学とマイクロ・ナノシステム学会（CHEMINAS）若手の会
環境技術学会「若手の会」
環境資源工学会 若手の会
経済学史学会若手研究者育成プログラム
血管生物医学会 若手の会
細菌学若手コロッセウム
細胞生物若手の会
錯体化学若手の会
資源・素材学会 資源・素材若手ネットワーキング
次世代医工学研究会
地盤工学会 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会
人類学若手の会
水産学若手の会
生命情報科学若手の会
全国英語教育学会 学生支援部
炭素材料学会 次世代の会
地域農林経済学会 若手の会
千葉看護学会 若手研究者育成委員会
天文教育普及研究会 若手の会
電子スピンスイエンズ学会 若手の会（SEST 若手の会）
糖鎖インフォマティクス若手の会
日本育種学会若手の会
日本宇宙生物科学学会 若手(次世代)研究者育成委員会
日本衛生学会若手研究者の会
日本疫学会 若手の会
日本顔学会若手交流会
日本家庭科教育学会若手の会
日本看護科学学会 若手の会
日本基礎心理学会若手研究者特別委員会
日本教育行政学会若手ネットワーク
日本教育経営学会 若手研究者のためのラウンドテーブル
日本経済学会 若手・女性研究者支援ワーキング・グループ

日本ゲノム微生物学会若手の会
日本顕微鏡学会 次世代顕微サイエンス若手研究部会
日本行動科学学会若手の会
日本産業衛生学会 生涯教育委員会 若手研究者の会
日本産業技術教育学会 若手の会
日本サンゴ礁学会若手の会
日本蚕糸学会 若手の会
日本心理学会若手の会
日本睡眠学会 若手の会
日本生態学会キャリア支援専門委員会
日本生理心理学会 若手の会
日本生理人類学会 若手の会
日本草地学会若手の会
日本畜産学会若手企画委員会
日本農芸化学会 産学官若手交流会（さんわか）
日本放射化学会 若手の会
日本保健福祉学会若手の会
日本南アジア学会月例懇話会
日本溶射学会 若手の会
農業気象学会若手研究者の会
農村計画学会若手ネット
微生物若手の会
ビーム物理研究会 若手の会
溶接学会 若手会員の会
若手音声研究ネットワーク
Japan National Young Water Professionals

化学工学会関東支部若手の会 ChEC-East21

1. 若手の会名称
化学工学会関東支部若手の会 ChEC-East21
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
小林大祐
東京電機大学工学部応用化学科
准教授
3. 構成メンバー、人数
化学工学会関東支部に所属する若手研究者、技術者。
2016年度は幹事11名。
4. 関連のある学協会名称
化学工学会(関東支部)
5. 若手の会のミッション
化学工学分野における若手研究者・技術者間において、
技術や学術的知見を共有・交換することで、相互交流体制を
構築することを目的とする組織です。
また、将来的な化学工学会の会員数増加につながることを
目的に、化学工学会全国各支部の若手の会と連携しています。
6. 活動内容
 - ・年数回の幹事による幹事会の開催
 - ・年1回程度の若手研究者講演会の開催(他支部との合同開催も含む)
 - ・「化学工学会年会」、「化学工学会秋季大会」における若手の会
主催のシンポジウムの開催
7. 若手の会の課題
 - ・主催する講演会などへの参加者の増員
 - ・産業界の課題と学側の研究との乖離の解消
 - ・若手の会主催のシンポジウムへの企業研究者の誘致(講演者、
ならびに参加者)

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

学会における若手研究者の位置づけや求められていることなどを共有し、各自の学会において有用なことを取り入れることで、近年課題となっている学会会員数の減少に歯止めをかけるなど、それぞれの学会の基盤の強化につなげるための知識の共有化を期待します。

化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会 Q・NET

1. 若手の会名称

化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会（愛称：Q・NET）

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

森貞 真太郎、佐賀大学大学院工学系研究科、准教授

3. 構成メンバー、人数

化学工学会九州支部に所属する若手研究者・技術者。

2016年度は44名（大学35名、高専7名）。

4. 関連のある学協会名称

化学工学会（九州支部）

5. 若手の会のミッション

九州支部内の学生の組織である「若手の会」を側面から支えるとともに、本会（Q・NET）会員が所属する団体間で技術や知識を共有し、人的交流を含めた協力体制を築く。また、活動を通じて化学工学の有用性を社会に示し、会員の増強にも努める。さらに、共同研究へ発展性のある内容に関しては、その橋渡しをし、もって化学工学の発展に貢献することを目的とする。

6. 活動内容

- ・年1～2回の運営会議の開催
- ・「化学関連支部合同九州大会」における「化学工学分野」ポスター賞の審査とりまとめ
- ・化学工学会の全国大会（秋季大会および年会）における若手シンポジウムの企画
- ・「九州地区若手ケミカルエンジニア討論会」を運営する学生組織「若手の会」のサポート
- ・「九州地区大学－高専若手研究者研究・教育セミナー」の開催（2016年度は九州大学伊都キャンパスにて2016年8月27日～28日に実施）

7. 若手の会の課題

- ・地方大学の若手教員（特に助教）の著しい減少に伴う「Q・NET」会員の減少
- ・企業に所属する「Q・NET」会員の増強

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

上記7の1つである、若手教員・研究者の減少は、分野を問わず大きな問題である。博士研究員の数は増加しているものの、不安定なポストであることや、多くは数年で所属が変更になることから、学会等の運営に関わることは困難である。そこで、若手科学者ネットワークには、若手教員・研究者の減少に付随して発生する問題点を整理し、関係機関へ改善要求していただけることを期待します。

化学とマイクロ・ナノシステム学会（CHEMINAS）若手の会

1. 若手の会名称
化学とマイクロ・ナノシステム学会 若手の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
横川隆司 京都大学大学院 准教授（CHEMINAS 若手担当理事）
清水久史 東京大学大学院 助教（H28 年度 CHEMINAS 若手企画実行委員長）
3. 構成メンバー、人数
CHEMINAS に所属する 35 歳以下または学位取得後 8 年未満の会員。約 50 名。
4. 関連のある学協会名称
化学とマイクロ・ナノシステム学会
5. 若手の会のミッション
年 1 回、秋の研究会に併設の若手企画の立案と実施
6. 活動内容
秋の研究会初日の午前中を利用して、博士課程の学生会員と協力して若手企画を実施している。具体的には、他分野の若手研究者を招聘し招待講演を実施したり、独創的かつチャレンジングな研究テーマを立案するコンテストなどを実施している。
7. 若手の会の課題
比較的歴史が浅く、かつ融合的な分野であるため、若手研究者を輩出する研究室の広がり十分でなく、会の運営が一部の研究室に集中する傾向にある。また、博士後期課程の学生も含めて活動しているため、学生にとって大きな負担となることがある。若手研究者同士の横の繋がりを強めて、活動を活性化する必要がある。
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
異分野の若手研究者同士がどのように交流して繋がりを深め、研究分野全体の発展に向けて取り組んでいるのかを参考にしたい。また、近年の若手研究者らが置かれている状況全体を俯瞰し、課題の提言に取り組んでいきたい。

環境技術学会「若手の会」

1. 若手の会名称
環境技術学会「若手の会」
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
櫻井伸治，大阪府立大学大学院生命環境科学研究科，助教
3. 構成メンバー、人数
産官学の若手の研究者・技術者から構成されており，構成員は2016年3月現在8名
4. 関連のある学協会名称
環境技術学会
5. 若手の会のミッション
環境問題に対する技術の研究・開発に関心のある若手会員の有志が，分野の垣根を越えて横断的に情報を発信し，互いに議論の場を設けることで，自身の知識・見識を拡大するとともに，環境問題を克服する技術力の発展と向上に貢献する。
6. 活動内容
2016年度は，年一回の幹事会ならびに大会での勧誘活動に留まっている。
7. 若手の会の課題
 - ①活動の活性化とその時間の確保
 - ②構成員の拡大
 - ③活動内容の拡充
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
当該若手の会は規模が小さく，安定した活動が困難な状況である。その要因として，若手ゆえに幹事が活動する時間が十分に確保できないことが挙げられる。このような苦境ではあるが，若手科学者ネットワークを「限られた時間と資金で，他の若手の会がどのような活動を行っているかについて情報・ヒントが得られる場」と捉えており，今後もアニュアルレポートの発信を安定的に実施して頂くことを期待している。

環境資源工学会 若手の会

1. 若手の会名称

環境資源工学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

世話人（代表者）村山憲弘 関西大学 教授

3. 構成メンバー、人数

概ね45歳以下の学会員が対象。企業所属の若手技術者の参画が多いことに特徴を有する。若手の会メンバーは約50人。世話人（代表者）1人と幹事2人が中心となり企画・運営を行う。

4. 関連のある学協会名称

（一社）資源・素材学会、（一社）廃棄物資源循環学会、（公社）化学工学会、（公社）日本金属学会など

5. 若手の会のミッション

産官学の若手同士が分野や日常業務を超えた交流を深め、次世代を担う俯瞰的視野を持った研究者や技術者として互いに成長できる場を設けることが本会設立の趣旨である。若手研究者、若手技術者の立場から、環境資源工学会理事会に向けて様々な意見や要望を定期的に発信できる組織に発展させることが目標である。

6. 活動内容

- ①学術講演会時に「若手の会・ランチョンミーティング」と称する講演会を実施する。
- ②ランチョンミーティングでの活動内容を報告記として学会誌に掲載する。
- ③ランチョンミーティングの前日に、若手の会交流会を実施する。
- ④若手の会に寄せられた学会に対する意見や要望を取りまとめ、それらを学会理事会に提言する。

7. 若手の会の課題

対象世代の関連分野の研究者や技術者を、若手の会メンバーとして定期的に確保すること。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

専門を異にする若手研究者・若手技術者間のネットワーク形成の機会。

経済学史学会若手研究者育成プログラム

1. 若手の会名称
経済学史学会若手研究者育成プログラム
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
久保真、関西学院大学経済学部、教授
3. 構成メンバー、人数
経済学史学会会員ならびに経済学史に関心を持つ若手研究者・院生等。人数はそのつど開催される会合によって異なり、一定していない。
4. 関連のある学協会名称
経済学史学会
5. 若手の会のミッション
様々なテーマのセミナーの開催を通じて、若手研究者の研究教育のスキルアップ、ひいては彼らのキャリアアップを支援することを目指す。
6. 活動内容
研究報告の実践とそれに対するアドバイスと討議、英語論文報告と海外研究者によるコメント、ゲスト講師による様々なテーマ（論文執筆、国際誌投稿、研究費獲得、研究の新手法、教育実践ノウハウ等）に関する講演、など。
7. 若手の会の課題
若手メンバーの減少。
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
専門領域を越えた学術的ネットワークの形成と、若手研究者のサポート体制づくり。

血管生物医学会 若手の会

1. 若手の会名称
血管生物医学会 若手の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
木戸屋 浩康、大阪大学微生物病研究所、助教
3. 構成メンバー、人数
主に日本血管生物医学会に所属する若手研究者 約 50 名
4. 関連のある学協会名称
日本血管生物医学会
5. 若手の会のミッション
血管に関連する若手研究者が交流できる場を設けることで、研究レベルの向上や有機的な共同研究を促進すること。
6. 活動内容
年に一度、研究会を開催して、各自の最新の研究成果について議論する。
日本血管生物医学会の会期中に若手が交流する場を設けて連携を深める。
ホームページ
<http://jvbmo.umin.jp/sg.html>
7. 若手の会の課題
本会では、血管に関連する研究を行っている全ての若手研究者を分野に拘らずに対象としている。血管は多くの生物に普遍的な組織であり、対象とした研究は他分野にて認められるが、本会への参加者は多くはない。今後は、血管研究の裾野を広げるためにも、本会の存在を他分野の研究者へ広く告知し、活性化を図っていきたい。
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
若手会の運営者や委員が参加するという特色を活かし、若手会の運営方法に関するノウハウの共用や、研究会の合同開催など、交流が生まれることを期待している。

細菌学若手コロッセウム

1. 若手の会名称
細菌学若手コロッセウム
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
尾花 望
筑波大学生命環境系 助教
3. 構成メンバー、人数
57名 (2016年度)
世話人6名
4. 関連のある学協会名称
日本細菌学会、日本微生物生態学会、日本ゲノム微生物学会、日本RNA学会、日本免疫学会、日本乳酸菌学会、日本寄生虫学会
5. 若手の会のミッション
本会は、今後の細菌学の礎を築く若手研究者が切磋琢磨する場を提供することを目的としています。細菌・アーキア・真菌を研究している若手研究者が合宿形式で集い、各自のデータを口頭発表します。率直な疑問・意見をぶつけあうことで、新たな研究者ネットワークを構築し、研究者としての成長を目指しています。
6. 活動内容
 - ・年一回の合宿形式の研究会の開催
 - ・日本細菌学会年会におけるシンポジウム企画
7. 若手の会の課題
 - ・世話人を担当する若手研究者の確保
 - ・異分野の若手研究者を誘致するための魅力的な企画の運営
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
 - ・異分野融合による学際的研究の発展
 - ・若手研究者間ネットワークの構築

細胞生物若手の会

1. 若手の会名称
細胞生物若手の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
入江 和樹（東北大学 大学院生命科学研究科 博士後期課程 2年）
3. 構成メンバー・人数
細胞生物学分野及び関連分野に関心を持つ者（学生（主に大学院生）をはじめとする若手研究者が中心だが年齢制限はない）
約 80 名（ML 登録人数）
4. 関連のある学協会名称
日本細胞生物学会
5. 若手の会のミッション
学生をはじめとする若手研究者の交流・情報交換を促進し、細胞生物学分野の研究者コミュニティの発展を若い世代から支えていくことを目的としている。
6. 活動内容
細胞生物学会大会における「若手の会企画シンポジウム」の企画・運営及び年 1 回の若手研究交流会の実施
7. 若手の会の課題
2015 年に設立されたばかりの新しい団体である事や運営メンバーが一代限りで交代する事から、蓄積された運営ノウハウが乏しく、運営方法に関してはまだ模索を続けている段階である。また、年間の活動も現状では年 1 回の交流会や学会のシンポジウムのみとなっており、今後のさらなる活動の拡充が求められている。母団体である学会と連携していく事で、団体の安定的運営・団体活動の充実化に努めていきたい。
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
他の若手団体との分野の垣根を超えた交流や情報交換。特に組織運営や若手キャリア育成などの点はどの団体でも通じるはずである。

錯体化学若手の会

1. 若手の会名称

錯体化学若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

草本哲郎

東京大学 大学院理学系研究科 化学専攻 助教

3. 構成メンバー、人数

錯体化学に係わる学生および若手研究者。

学生会員 307 名、一般会員 99 名、合わせて 406 名

(2017 年 2 月 28 日時点)

4. 関連のある学協会名称

錯体化学会、日本化学会

5. 若手の会のミッション

「錯体化学」に関連した分野の研究を行っている若手の研究者および大学生・大学院生の交流・情報交換を通して自らの研究に対する情熱と知識を高め、研究意欲を高めることを目的とする。

6. 活動内容

- ・支部勉強会の開催（年 10 回程度）
- ・異分野交流シンポジウムの開催（不定期）
- ・夏の学校の開催（2 泊 3 日の合宿形式）
- ・ニュースレターの発行（年 4 回）
- ・メーリングリスト配信

7. 若手の会の課題

- ・勉強会（特に地方で開催される定期勉強会）に参加する学生の交通費に対し経済支援したいが現状では十分にはできていないこと。
- ・海外の若手研究者（Ph. D reserarchers, Ph. D candidates）と有効に交流しネットワークを広げるための方法と仕組みを作る事。
- ・国内の異分野の若手研究者との交流の機会を積極的に作る事。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

異分野間あるいは異国間で若手研究者同士が知り合い、交流し、刺激し合えるような
機会の創出

資源・素材学会 資源・素材若手ネットワーキング

1. 若手の会名称

資源・素材学会 資源・素材若手ネットワーキング

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

芳賀一寿（はがかずとし）

秋田大学大学院理工学研究科 助教

3. 構成メンバー、人数

資源・素材学会に所属する若手会員（学生も含む）が対象

2017年3月時点で約400名程度

4. 関連のある学協会名称

環境資源工学会、日本金属学会、資源地質学会など

5. 若手の会のミッション

資源・素材分野では、世界的な鉱物資源の偏在に起因する供給不安等の問題を解決するため、多様なソースの確保とそれぞれに最適なプロセスの実現に向けて、技術・研究者の育成・確保が喫緊の課題となっている。そこで、本若手の会「資源・素材若手ネットワーキング」では、産学官の世代を超えた資源・素材系技術・研究者の3次元ネットワークを構築し、この分野で活躍する人材のベース強化を図ることを目的に活動を行っている。

6. 活動内容

主な活動内容は以下の通りである。

○年1回のミニシンポジウム

○学生・院生を対象とした勉強合宿への協力と指導補助

○不定期開催（年2回以上）の情報交換・人材交流会

7. 若手の会の課題

本若手の会は、産官学が一体となったネットワーキング、交流に最大の特徴があり、より多くの参加者を募るために、本会の主要学会である「資源・素材学会」の全国大会開催時期に合わせて若手の会を開催しているが、資源・素材分野の若手は、世界を股にかけて活躍しているため、メンバー全員を一度に召集することが難しく、

参加率が伸び悩んでいる。メンバーが所属する企業、機関が、ネットワーク構築の重要性を理解し、本会の活動を支援してくれるように、取り組んで行くことが必要であることはもちろんであるが、開催時期や場所にも更なる工夫が必要と考えている。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

産学官で活躍する若手人材間のネットワークの強化が図ることで、資源・素材分野全体の結束力が高まり、技術の高度化に裏打ちされたより良い政策が打ち出されることが期待される。

次世代医工学研究会

1. 若手の会名称
次世代医工学研究会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
樋口ゆり子、京都大学大学院薬学研究科、講師
3. 構成メンバー、人数
生体医工学に関連する研究に携わる若手研究者、約 150 名
4. 関連のある学協会名称
日本バイオマテリアル学会、日本 DDS 学会、高分子学会、ほか
5. 若手の会のミッション
医学・工学・薬学などの学際融合領域である生体医工学研究に携わる若手研究者がお互いに情報交換することにより、共同研究を育める土壌を提供する。近い世代の研究者が集まり、若手研究者を取り巻く研究環境や関係する研究分野の将来像について意見交換をすることで研究分野の発展を目指す。
6. 活動内容
年に 2 回の宿泊形式またはシンポジウム形式の研究会の開催
7. 若手の会の課題
若い会員を増やすこと
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
異分野との交流。

地盤工学会 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

1. 若手の会名称

地盤工学会 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

田中 真弓, 鹿島建設株式会社, 課長代理

3. 構成メンバー、人数

地盤工学会に所属する研究者・技術者。2016年度は16名。

4. 関連のある学協会名称

地盤工学会

5. 若手の会のミッション

ダイバーシティ（多様な人材の個性を価値として活かし、それぞれが実力を発揮できる文化や環境の構築）の実現のため、若手、ベテラン、女性、外国籍など多様な人材の仕事上の枠を超えた人と人のつながりを醸成する。

6. 活動内容

- ・ホームページや地盤工学会誌など様々な媒体を通じて委員会活動および関連事項を広報する。
- ・研究発表会特別セッションなど関連イベントを継続的に企画する。
- ・座談会を企画し、会員のニーズを把握する。
- ・ダイバーシティへの動機付けの一つの方策として、ダイバーシティ推進へ積極的な団体・組織の顕彰制度設立を検討する。

7. 若手の会の課題

- ・若手会員の減少
- ・ベテラン会員から若手会員への円滑な世代交代

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

- ・専門を異にする若手研究者・技術間のネットワーク形成の機会として期待している。

人類学若手の会

1. 若手の会名称

人類学若手の会



2. 代表者の名前、所属機関、職位等

西村 貴孝（代表 / 長崎大学・医歯薬学総合研究科・公衆衛生学・助教）

3. 構成メンバー、人数

メンバーの専門分野は多岐にわたり、形質人類学、考古学、生理人類学、文化人類学、
霊長類学 などさまざまな学問的バックグラウンドをもつ若手が参加しています。
2016年4月現在の参加者は約100人です。

4. 関連のある学協会名称

特定の学会の組織ではなく、いくつかの学会の若手が集まって運営しているため、会
員の所属学会は多岐にわたります。

5. 若手の会のミッション

人類学若手の会は、所属学会に関係なく、広義の人類学に携わる若手研究者・学生の
交流を横断的に促進することを目的として、2012年8月に設立されました。

6. 活動内容

人類学若手の会は、特に若手研究者と大学院生を中心に、人類学諸分野の交流と連携
を推進することを目的にしています。現在行なっている活動内容は以下の通りです。

- ・オンライン機関誌「Anthropological Letters」の発行
- ・年一回の総合研究集会の開催
- ・その他セミナーや研究関連イベントの開催
- ・メーリングリストなどによる情報交換

詳細は以下のWebサイトをご参照ください。

<https://sites.google.com/site/jinruiwakate/>

7. 若手の会の課題

- ・母体となる学会組織がないため、研究集会を運営する資金源が乏しい。
- ・会員は各地にいたので、集まるのに労力がかかる。
- ・就職など、若手研究者の置かれている厳しい現状を改善する。
- ・自然人類学を専門とする会員の数が多く、「人文系」の人類学（考古、心理、

文化，歴史など) に携わる若手が少ない。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

今後の若手の活躍に資するような活発な意見交換、提言等を期待します。

水産学若手の会

1. 若手の会名称
水産学若手の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
(2017年2月まで) 水澤寛太、北里大学 海洋生命科学部、准教授
(2017年3月から) 馬久地みゆき、国立研究開発法人 水産研究・教育機構、研究員
3. 構成メンバー、人数
特別委員 18名
メーリングリスト登録者 90名
4. 関連のある学協会名称
日本水産学会
5. 若手の会のミッション
水産学に携わる若手研究者の交流を促進するとともに、若手研究者の研究活動を支援し、もって水産学全体の活性化に寄与することを目的とする。
6. 活動内容
 - ・シンポジウムやセミナー等の開催
 - ・ホームページやメーリングリスト等の運営
 - ・雑誌等への連載
 - ・交流会・ナイトポスターセッション等の若手研究者の研究活動・交流支援
7. 若手の会の課題
 - ・学生および地方水試の若手研究者への支援
 - ・日本水産学会の地方支部や関連学会の若手との交流と連携
 - ・若手の会の活動の周知、若手と学生に対するはたらきかけ
 - ・水産関係企業及び漁業生産現場からの情報提供の促進
 - ・財源
 - ・委員会構成の偏り（分野と所属組織）
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
 - ・若手研究者の異分野交流および研究活動促進のための意見・情報交換
 - ・雇用や研究制度等の若手研究者に関わる問題を取りまとめ、学术界や行政へ提言

生命情報科学若手の会

1. 若手の会名称

生命情報科学若手の会

2. 代表者の氏名、所属機関、職位等

2016 年度代表 堀之内貴明、理化学研究所生命システム研究センター、研究員

3. 構成メンバー、人数

若手研究者（大学・研究所・企業）から学部学生まで

運営スタッフ 19 名、研究会 ML 登録者数 268 名（2017 年 3 月 27 日現在）

4. 関連のある学協会名称

なし

5. 若手の会のミッション

近年の生命科学では「高速シーケンサーによるオミクス解析」、「遺伝子・タンパク・細胞・組織レベルの定量的解析」、「ライブイメージングや画像情報解析」等の発展により、情報学的視点を備えての研究がさらに求められるようになってきている。生命情報科学若手の会は、情報学的な視点に基づいて新しい生命現象の見方を提供する研究を志す若手研究者（大学生・大学院生を含む）の交流推進を目的として、2009 年 2 月に設立された。

6. 活動内容

生命情報科学若手の会の主な活動として、年に 1 回の合宿形式で行われる研究会の開催、不定期の研究関連イベントの開催、ならびにメーリングリストなどによる情報交換がある。今年度は北海道大学において第 8 回研究会を開催し、70 名程度の参加者があった。当会では例年、財団助成金等の支援を得ることで、研究費を持たない学部生や大学院生の参加費用（交通費・宿泊費・年会参加費）の補助をしている。今年度の研究会では希望者 17 名全員に対し補助を行うことができた（参加者レポートも参照のこと <http://bioinfowakate.org/events/annualmeet2016.html>）。その他の活動内容として、人工知能学会が発刊する学会誌の小特集「日本の AI 元気な若手の動き」に当会についての紹介記事を寄稿した（人工知能, 32(2), 2017）。機械学習をはじめとする AI 技術の発展は、今後生命情報科学にも大きく関係すると思われ、これらの活動が新しい融合分野の芽生えに貢献できることを期待している。

7. 若手の会の課題

研究会新規参加者の確保、異分野の参加者間の交流促進、運営スタッフの確保、運営

資金の確保、他の若手研究会との交流。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること
他分野の若手コミュニティとの交流の機会の確保

全国英語教育学会 学生支援部

1. 若手の会名称
全国英語教育学会 学生支援部
2. 代表者の氏名、所属機関、職位等
名畑目真吾（共栄大学専任講師）
3. 構成メンバー、人数
大学教員等 3～4 名
4. 関連のある学協会名称
全国英語教育学会
5. 若手の会のミッション
学生を中心とした若手研究者への支援
6. 活動内容
年次大会での学生対象のフォーラムの開催，学生の大会参加旅費補助等
7. 若手の会の課題
学生への支援体制の確立と学生以外の若手研究者への支援拡大
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
様々な若手研究者支援事例の共有

炭素材料学会 次世代の会

1. 若手の会名称
炭素材料学会 次世代の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
幹事長（2017年） 後藤和馬、岡山大学、准教授
3. 構成メンバー、人数
炭素材料学会の45歳以下の会員。約400名。
4. 関連のある学協会名称
炭素材料学会
5. 若手の会のミッション
次の世代を担う、炭素材料に関わる若手研究者・技術者の連携を深め、関連分野の発展に貢献する。
6. 活動内容（2017年）
 - ・ 論文出版支援
論文出版にかかる費用の補助として、1件につき最大10万円を補助
 - ・ 常任幹事会（4月21日、東京にて開催）
常任幹事（幹事長＋副幹事長）、夏季セミナー実行委員、夏季セミナーヘルプデスクが集まり、夏季セミナーに関する詳細な打ち合わせと、次世代の会の一般的事項に関する打ち合わせを実施。
 - ・ 夏季セミナー（8月、札幌）
2016年より次世代の会が主催。会期中に次世代の会幹事会を開催。
 - ・ 年会インターナショナルセッション関連（12月、桐生）
海外からの招待講師の先生方との交流会を企画予定。
 - ・ 定例会@年会（12月、桐生）
7. 若手の会の課題
活動の充実化と周知。2016年は次世代の会としての新たな活動をいくつか始めることができたので、今後これを定着させていきたい。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

若手世代の要望を国に伝えること、若手研究者に関する国策情報の迅速な共有化等。
幹事長を交替しました。よろしくお願いいたします。

地域農林経済学会 若手の会

‘The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics’ Youth Network

1. 若手の会名称

地域農林経済学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

本田 恭子（岡山大学大学院環境生命科学研究科、助教）

3. 構成メンバー、人数

54名（2016年3月末現在）。会員は博士前期課程院生から助教や講師まで様々です。地域農林経済学会に所属する若手研究者・院生が中心ですが、非会員も参加しています。

4. 関連のある学協会名称

地域農林経済学会（The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics）

若手の会は地域農林経済学会から承認を得ていますが、活動は独立して行っています。ウェブサイト（<http://a-rafe.org/68/0>）

5. 若手の会のミッション

若手研究者・院生間での研究に関する交流を促し、研究をブラッシュアップできる機会を増やすことを目的としています。

6. 活動内容

毎年10月に開催される地域農林経済学会研究大会の期間中に活動報告会と交流会を開催しています。また、会員の要望に応じて、統計学の勉強会や論文の輪読会、研究報告会を随時開催しています（2011年より計17回開催）。2016年度は地域農林経済学会の支部大会でのセミナーや、ゲーム理論に関する勉強会を開催しました。現在の主な活動場所は京都・神戸です。

7. 若手の会の課題

現在の若手の会の課題は次の3点です。

- ・遠方のため研究会や勉強会へ気軽に参加できる状況にない若手研究者・院生へどのように対応していくか
- ・単なる交流や研究紹介だけに終わらせない工夫をどうするか

- ・自身の研究や職務に追われる若手研究者・院生が多い状況で活動をどう進めていくか

また、関西では大学間の距離が離れているため、大阪駅などターミナル駅の周辺で無料もしくは安価で小規模な会議室（30人程度の）があると便利ですが、そのような部屋の確保が難しい状況です。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

- ・上記課題の解決に向けて、他分野の若手ネットワークと情報交換を行いたい
- ・様々な分野の若手研究者が集まる場であることを活かして、学際融合を進めたり、若手の会が抱える問題の解決に向けて政府等に何らかの働きかけを行うことなどを期待したい

千葉看護学会 若手研究者育成委員会

1. 若手の会名称
千葉看護学会 若手研究者育成委員会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
代表者 高橋良幸 千葉大学大学院看護学研究科 助教
3. 構成メンバー、人数
4名
4. 関連のある学協会名称
なし
5. 若手の会のミッション
若手研究者の育成
6. 活動内容
研究への助成金や学術集会の参加費助成、その他若手研究者の育成に関する企画と実施
7. 若手の会の課題
若手研究者の育成の活動と成果の関連を示すことが難しい、支援が効果的な人を支援できているかどうかの判断が難しい
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
様々な研究手法の紹介、最新の研究につかえるツールの紹介

天文教育普及研究会 若手の会

1. 若手の会名称
天文教育普及研究会 若手の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
高梨直紘（天文教育普及研究会 副会長）
東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラム室 特任准教授
3. 構成メンバー、人数
約 20 名
4. 関連のある学協会名称
天文教育普及研究会
5. 若手の会のミッション
会のビジョン構築など
6. 活動内容
オンラインでの議論と、それを受けての具体的活動
7. 若手の会の課題
議論の活性化
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
異分野との交流やイベントの企画

電子スピサイエンス学会 若手の会 (SEST 若手の会)

1. 若手の会名称

一般社団法人 電子スピサイエンス学会 若手の会 (SEST 若手の会)

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

江間 文俊,

神戸大学大学院理学研究科化学専攻, 博士課程後期課程 2 年 (2017 年 4 月現在)

3. 構成メンバー、人数

一般社団法人 電子スピサイエンス学会に所属する満 32 歳未満の者,
121 人 (2016 年 7 月 31 日現在)

4. 関連のある学協会名称

電子スピサイエンス学会, 日本化学会, 日本物理学会, 日本分析化学会, 日本薬学会, 日本酸化ストレス学会, 国際 ESR/EPR 学会, アジア太平洋 ESR/EPR 学会

5. 若手の会のミッション

電子スピサイエンスに携わる若手相互の交流を積極的に推し進めることで, 視野を広げると共に, 様々な分野・学術領域に対応できる見識を養う事を目的とする。このような活動を通して, 母体団体である電子スピサイエンス学会の発展と裾野の拡大に寄与していくこと。

6. 活動内容

毎年数名の講師を招き, 電子スピン科学に関わる様々な分野の基礎から実践への繋がりを講義形式で学ぶこと。また, 講師を含めた参加者全員の研究紹介を通して議論し合うことで, 互いに刺激し合い切磋琢磨することを目的として, 毎年夏に, ESR 夏の学校を開校している。また, 「電子スピン」という共通のキーワードをきっかけに相互の研究への理解を深め, 他分野の研究への理解を深め, 他分野の研究に関しての見識を広げることは重要かつ魅力的であると考え。そこで, 電子スピンに関する多岐分野への理解の機会を作ることを目的として, 毎年秋に, 電子スピサイエンス学会年会時に, 様々な分野でご活躍されている先生方から 1 名から数名をお招きし, ご講演いただいている。

7. 若手の会の課題

若手研究者にとって、研究の進め方、実験や解析に関わる技術的な部分の理解を深めることは、非常に有意義である。また、学会発表の形式にこだわらず、学生が自由に質疑応答に参加できる機会が求められる。しかし、このような機会は限られている。そこで、研究の進め方や実験、解析に関わる技術的な部分に焦点を当て、若手研究者との相互的な議論を行う機会を提供することを検討している。特に、他分野の学会や若手研究者との交流の必要性から、ESRにこだわらず、電子スピン、そしてより幅広い分野の研究会の開催を検討している。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

他分野の学会や若手研究者との交流の機会を提供していただけること。

糖鎖インフォマティクス若手の会

1. 若手の会名称

糖鎖インフォマティクス若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

高橋 悠志、創価大学大学院工学研究科生命情報工学専攻、博士後期課程

3. 構成メンバー、人数

2017年3月現在35名。

4. 関連のある学協会名称

日本糖質学会

5. 若手の会のミッション

世界的に見ても日本の糖鎖生物学研究は進んでおり、様々な糖鎖関係の生物学的、生化学的な解析が行われている。一方、バイオインフォマティクスの分野においても日本から数々のデータベースや解析法が発表され、実践的に利用されている。その中、糖鎖に着目するバイオインフォマティクス研究も少しずつ進歩してきた。しかし、糖鎖生物学の実験系の研究者と情報系の研究者の間にはギャップがあり、コミュニケーションを取るのが難しい面もある。そのため、開発された糖鎖インフォマティクスの技術が利用されず、改良の余地もない状態である。従って本会は、このギャップをできるだけ埋め、糖鎖生物学研究に貢献できるように糖鎖インフォマティクスの研究者と連携を取れるようにし、糖鎖研究をさらに促進することを趣旨とする。

6. 活動内容

年数回のハッカソン、勉強会の開催

7. 若手の会の課題

糖鎖生物学および糖鎖インフォマティクスに興味を持つ若手研究者・学生に対する本会の周知。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

専門が異なる様々な若手研究者間のネットワークの形成や、活発なコミュニケーションを行う機会の創出。

日本育種学会若手の会

1. 若手の会名称
日本育種学会若手の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
矢部志央理
農業・食品産業技術総合研究機構 次世代作物開発研究センター 研究員
3. 構成メンバー、人数
日本育種学会に所属する学生、若手研究者
現在の幹事は3名
4. 関連のある学協会名称
日本育種学会
5. 若手の会のミッション
若手研究者や、研究に携わる学生のコミュニティーを形成し、互いに交流できる場を作ることを目的としている。
6. 活動内容
年2会の日本育種学会講演会にて、若手の会主催の研究集会・ワークショップを開催している。また、ワークショップの開催報告を、育種学研究に投稿・掲載している。
7. 若手の会の課題
若手の会の知名度の向上と、学生・若手研究者の参加促進。
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
分野を超えた若手研究者のコミュニティーを形成し、互いに相談しあえる環境を持つことを期待している。

日本宇宙生物科学会 若手(次世代)研究者育成委員会

1. 若手の会名称

一般社団法人 日本宇宙生物科学会 若手(次世代)研究者育成委員会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

委員長：曾我康一、大阪市立大学、准教授

3. 構成メンバー、人数

若手(次世代)研究者育成委員会、5名：

曾我康一(大阪市立大学)、新井真由美(日本科学未来館)、寺西美佳(東北大学)、平坂勝也(長崎大学)、矢野幸子(JAXA/NISTEP)

メーリングリストメンバー、27名：

日本宇宙生物科学会の会員を中心とする自称「若手」

4. 関連のある学協会名称

一般社団法人 日本宇宙生物科学会

5. 若手の会のミッション

宇宙生物科学研究を担う若手(次世代)研究者を支援する活動を行い、若手(次世代)研究者の育成に貢献する。

6. 活動内容

「若手の会」設立の検討

日本宇宙生物科学会大会におけるシンポジウムの開催

高校生に対する日本宇宙生物科学会大会での発表支援

メーリングリストによる情報提供

7. 若手の会の課題

学部生や大学院生が中心となる「若手の会」が以前は活動していたが、現在、活動を中止している。日本宇宙生物科学会の会員だけでの活動は難しいことから、関連する他の学会と共同で、「若手の会」を設立できないかを検討している。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

若手科学者ネットワークを通じて、さまざまな分野の若手の会メンバーと情報交換を行い、本委員会の活動に活かしていきたい。

日本衛生学会若手研究者の会

1. 若手の会名称
日本衛生学会若手研究者の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
原田浩二、京都大学医学研究科、准教授
3. 構成メンバー、人数
若手研究者の世話人が企画をコーディネートしている。
現在（2016年度）世話人は10人である。
4. 関連のある学協会名称
日本衛生学会
5. 若手の会のミッション
若手研究者の交流促進とともに自由闊達な発言を促すことを目的としている。
6. 活動内容
若手研究者の活性化を目的として、年次学術集会で自由集会、ポスターセッション、シンポジウムを行ってきている。またそれ以外の時期でも交流会を開催している。
7. 若手の会の課題
2015年3月に学会の正式な若手の会として位置づけられ、
またそれにより、多くの若手研究者の参加を促している。
夏合宿のような企画を現在検討している。
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
若手研究者が抱える課題を共有できることを期待します。

日本疫学会 若手の会



1. 若手の会名称
日本疫学会 若手の会
正式名称：日本疫学会 疫学の未来を語る若手の会
(<http://youth.jeaweb.jp/>)
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
尾瀬功 愛知県がんセンター研究所疫学予防部・主任研究員
菊池宏幸 東京医科大学公衆衛生学分野・講師
清原康介 東京女子医科大学衛生学公衆衛生学第二講座・助教
3. 構成メンバー、人数
若手の会メーリングリスト登録者 約 250 名
…院生（博士課程）から 30 代が中心だが、自称「若手」であり、年齢層は多様。
中心構成員（＝世話人） 15-20 名
若手の集い（年 1 度の集会）の参加者
…約 100 名 院生（博士課程）から 30 代が中心。
4. 関連のある学協会名称
日本疫学会
5. 若手の会のミッション
学術的な議論のみならず、雑談や近況報告なども交えて気楽な雰囲気での疫学研究の進歩発展と若手疫学者相互の交流を図ることを目的としています。
6. 活動内容
「疫学の未来を語る若手の集い」を日本疫学会総会の前日に開催しています(年 1 回)。
毎年、若手疫学者の関心が高いテーマを選定、企画しており、疫学会会員、非会員を問わず多数の若手研究者が出席しています。直近 3 年のテーマは下記のとおりです。
2017 年「疫学者として生き残るコツ」
2016 年「グローバルな疫学者を目指して ～海外留学 UP-TO-DATE～」
2015 年「Journal of Epidemiology 編集委員に聞く！～いい論文を書くには～」
また、2015 年より、メンバーの相互交流と、疫学の学習機会の提供を目指して、新

たに合宿をはじめました。その他、「疫学の未来を語る若手の会メーリングリスト」で疫学研究に関する課題や疑問について若手の会の会員同士で随時、意見交換を行っています。

7. 若手の会の課題

若手同士の議論をもっと活発化したい。

学会を支えるためにも若手を中心とした会員数の増加。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

オンライン・オフライン問わず、分野をまたいだ若手研究者同士の交流の場を設定してくださることを期待しています。

日本顔学会若手交流会

1. 若手の会名称
日本顔学会若手交流会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
瀬尾昌孝、立命館大学情報理工学部、講師
3. 構成メンバー、人数
運営メンバー：
代表 瀬尾 昌孝
副代表 牛山 園子
前島 謙宣、高橋 翠、福富 大介、中村 衣里、山本 泰毅
登録メンバー数：82人
4. 関連のある学協会名称
日本顔学会
5. 若手の会のミッション
日本顔学会の公認サークルとして、顔学の振興・発展と、
「自称」若手による気軽な交流・議論
6. 活動内容
年間2回の定期交流会、不定期の有志企画、
母体となる学会の年次大会での若手企画
7. 若手の会の課題
参加者が母体となる学会の会員に閉じ気味
会での活動をメンバーの業務等、個人活動へ十分にフィードバックできていない
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
上記課題へのブレイクスルー

日本家庭科教育学会若手の会

1. 若手の会名称

日本家庭科教育学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

藤田智子、東京学芸大学、准教授

3. 構成メンバー、人数

日本家庭科教育学会員に所属する学生及び若手教員、約 30 名

4. 関連のある学協会名称

日本家庭科教育学会（内部組織として設置）、日本家政学会

5. 若手の会のミッション

- ・「家庭科」に関する研究、教育活動に取り組む若手の研究者、学生、小中高等学校の教員などが語り、学び、互いに高め合う場や機会を提供する。
- ・「家庭科」に関する研究、教育活動に関わる若手の研究者、学生、小中高等学校の教員などのネットワークを構築し、情報の受発信と共有化をはかる。

6. 活動内容

7月に行われた日本家庭科教育学会大会に合わせて、若手の会交流会を開催し、参加者の現在の研究内容や教育実践についての興味関心、課題などを話題とし、それらを共有した。また、若手の会の目的や活動内容などについても確認した。

7. 若手の会の課題

中心となるメンバーが多忙を極めるため、若手の会として大きな企画をしたりプロジェクトに取り組んだりすることが難しい。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

他領域の研究者との交流

研究環境の改善のために、組織として働きかけていくこと

日本看護科学学会 若手の会

1. 若手の会の名称

「日本看護科学学会（JANS）若手の会」

2. 代表者の名前、所属機関、職位

西村ユミ	首都大学東京大学院	教授
綿貫成明	国立看護大学校研究課程部看護学研究科	教授
濱吉美穂	佛教大学保健医療技術学部	講師
坂井志織	首都大学東京	客員研究員
鳥本靖子	国際医療福祉大学小田原保健医療学部	准教授
岩國亜紀	兵庫県立大学 地域ケア開発 研究所 周産期ケア 研究センター	研究員
大澤絵里	国立保健医療科学院	主任研究官
丸尾智実	甲南女子大学看護リハビリテーション学部	准教授

3. 構成メンバー、人数

登録数：468名（平成29年3月15日現在）

4. 関連のある学協会名称

5. 若手の会のミッション

「JANS 若手の会」は、日本看護科学学会（JANS）を母体としつつ、若手が自立して、研究活動、相互、他看護分野、学際、国際交流を行い、20年、30年先の看護学の発展への貢献を目指している。学術、社会的課題が確認できた際には、JANS 及び社会に向けて多様な提言を行い、現代医療、看護に対する社会的責任を担うことも目指す。以下を具体的な活動方針としている。

- 1) 学術会議若手アカデミー委員会のメンバーとなり、国内外の多様な学問分野における若手研究者との積極的な交流を図る。
- 2) 学術集会の交流集会を定例的に企画・運営し、若手の研究活動の促進に努める。
- 3) メーリングリストを介して、日常的な情報交換、相互交流を促進する。
- 4) ホームページを作成し、活動を公表、周知する。会員参加型のホームページとし、情報発信により互助・共助の関係をつくるためのツールとする。
- 5) 研修を企画・運営し、看護の研究や活動、実践を広く社会に伝達するとともに JANS 若手の会員の研鑽・ネットワーク構築・意欲向上を支援する機能をつくる。
- 6) 研究活動の地域格差を是正し、若手看護研究者が各地域で活躍できる素地をつく

るために、全国にエリア・コーディネーターを育成する。

6. 活動内容

2016 年度の活動内容

1) 『第 36 回日本看護科学学会学術集会』にて交流集会・研修・活動報告ブースを企画・運営

- ①交流集会：若手研究者の小さな一歩が社会の歩みとなるために
- ②研修：査読経験者から学ぶ論文作成・投稿・査読対応
- ③活動報告ブース：委員会活動を紹介し、今後の看護界への夢を記載する活動ブースを設けた。

2) 若手同士の交流を促進

「第 3 回若手の会オフ会」を開催。約 50 名の参加があり、全国から集まった若手研究者や実践家が、所属を越えた自由な意見交換を楽しみ、新しいつながりをつくることができた。

3) メーリングリストで情報の発信、意見交換 研究会、学会開催情報などを随時発信した。

4) エリア・コーディネーター

各エリアで若手研究者が活躍できる素地を作るために、JANS 若手の会の支部的役割としてエリア・コーディネーター制度をつくり、コアとなる人材を発掘・育成する活動に取り組んだ。今期は、北海道・東北・北関東・関東・東海・山陰・九州エリアで教育機関・臨床に所属する 15 名が各エリアのコーディネーターとなった。

7. 若手の会の課題

・若手が自律・自立して活躍できる素地をつくる

組織の一員として所属しながらも、独立した研究者としての自立・自律的な活動ができる素地をつくる必要がある。まずは、組織という垣根を越えて自由に活動できる場として、『JANS 若手の会』を継続発展させる。加えて、エリア・コーディネーターを増やしていくことで、前述のロールモデルとすることを検討している。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

①若手研究者が提言できる場をつくること

研究者育成の支援体制や研究推進のための体勢整備や、政策提言などを若手の立場から発信できる場をつくること。

②学際的な研究活動の場・ネットワークをつくる場となること

現代社会には一つの専門領域だけでは解決できない問題が山積している。そのた

め、若手研究者が持つ共通の課題を解決するために、各学術分野における情報交換やネットワークを構築できる場をつくること。また、様々な学協会の「若手の会」がもっている活動の「知恵」などを集約し、広く活用できる仕組みを整えていくこと。

③既存の枠組みに留まらないこと

既存の枠組みに留まらない組織運営のもと、新たな研究領域の創出の芽を見出し育てること。

④研究倫理の議論・発展の場

社会の価値観や状況が多様化・複雑化しその変化も著しい。それに伴って生まれた問題には、複雑な倫理的課題が内包されている。加えて、こうした課題に多様な領域の研究者や関係者が関与する際、既存の学問領域の常識では対応できない倫理的課題に直面する可能性がある。これらの倫理的課題を整理し、その論点を明確にし、議論できる素地を作ることが期待される。

日本基礎心理学会若手研究者特別委員会

1. 若手の会名称

日本基礎心理学会若手研究者特別委員会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

田谷修一郎，慶應義塾大学日吉心理学教室，専任講師

3. 構成メンバー、人数

年度開始時に42歳以下の日本基礎心理学会会員有志10名。

市川寛子（東京理科大），牛谷智一（千葉大），小川洋和（関西学院），白井述（新潟大），田谷修一郎（慶應義塾），原澤賢充（NHK技研），日高聡太（立教大），山田祐樹（九州大），四本裕子（東京大），和田有史（農研機構）

4. 関連のある学協会名称

日本基礎心理学会

5. 若手の会のミッション

若手研究者間のネットワークを構築し，日本基礎心理学会内外との情報交換を行い，若手会員の研究水準を向上させることを目指す。

6. 活動内容

基礎心理学会年次大会と併催して研究発表会を開催し，最優秀発表者をThe Psychonomic Scientist of the Year として表彰している。2016年度は『日本基礎心理学会第35回大会サテライトオーラルセッション』として，2016年10月28日 東京女子大学にて開催された。<http://psychonomic.jp/young/ypsoty/intro.html>

7. 若手の会の課題

- 基礎心理学分野の研究の活性化
- 若手研究者の環境の改善に向けた調査とサービスの提案

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

- 科研費などの競争的資金応募資格の緩和や，審査および交付スケジュール改善への働きかけ
- 若手研究者の研究・雇用環境の改善に向けた提案

- ・ 基礎科学の知見および基礎科学分野で学位を取得する過程で身につく技能の応用可能性の提案，およびそれによる一般企業・官公庁などアカデミア外への博士人材活用の促進

日本教育行政学会若手ネットワーク

1. 若手の会名称
日本教育行政学会若手ネットワーク
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
高橋哲 埼玉大学教育学部 准教授
3. 構成メンバー、人数
日本教育行政学会の若手会員
(毎年 4 月 1 日時点で 45 歳以下の日本教育行政学会の会員) 65 人
4. 関連ある学協会名称
日本教育行政学会
5. 若手の会のミッション
本教育行政学会の若手会員相互の情報交流等を通じた若手会員の研究推進と学会活動の活性化
6. 活動内容
グループウェア(サイボウズ Live)を活用した情報交流
若手ネットワークシンポジウム交流ポスターセッションに参加
7. 若手の会の課題
学会大会において若手を対象とした、若手を主体とした主催イベントの開催している
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
人文・社会科学系分野の重要性を関係機関に伝えていただきたい

日本教育経営学会 若手研究者のためのラウンドテーブル

1. 若手の会名称
若手研究者のためのラウンドテーブル
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
末松裕基 東京学芸大学 講師
3. 構成メンバー、人数
教育経営学に関連した若手研究者および大学院生（推定参加者約 30 名）
4. 関連のある学協会名称
日本教育経営学会
5. 若手の会のミッション
若手研究者の研究環境や教育経営学の今後のあり方を考える
若手研究者同士の交流と問題意識の共有
6. 活動内容
6 月の全国研究大会時のラウンドテーブル開催
7. 若手の会の課題
企画運営のあり方、新たな研究課題及び研究方法の検討、学会の研究知の世代間継承
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
若手研究者のネットワークづくり

日本経済学会 若手・女性研究者支援ワーキング・グループ

1. 若手の会名称
日本経済学会 若手・女性研究者支援ワーキング・グループ
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
大野由夏・北海道大学・教授
3. 構成メンバー、人数
10人
4. 関連のある学協会名称
日本経済学会
5. 若手の会のミッション
日本経済学会の若手・女性研究者を支援。
6. 活動内容
日本経済学会において、毎年、若手・女性研究者のための特別セッションを開催。
7. 若手の会の課題
効果的な若手支援策を絶えず追求。
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
<http://www.jeaweb.org/jpn/wp.html> のサイトにおいて、我々の活動を更新している。

日本ゲノム微生物学会若手の会

1. 若手の会名称

日本ゲノム微生物学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

広瀬侑、豊橋技術科学大学 環境・生命工学系、助教

3. 構成メンバー、人数

教員・研究員・学生、約 60 人

4. 関連のある学協会名称

日本ゲノム微生物学会

5. 若手の会のミッション

日本ゲノム微生物学会若手の会は、微生物学研究の次世代を担う若手研究者の交流と情報交換を通し、微生物や微生物ゲノムに関わる基礎・応用研究をより活発なものにすることを目的としている。

6. 活動内容

年 1 回開催している研究会では、ゲノム研究を含む多様な分野の微生物学研究者が集まり、お互いに研究の背景、基盤技術、研究データ等を紹介し、議論し合うことで、知識の向上や新たな研究者ネットワークの構築を行っている。2016 年度は 9 月 26 日(金)～28 日(日)の日程で八王子セミナーハウス(東京都八王子)にて開催した。若手研究者のニーズに答え、ゲノム情報解析に関する技術セミナーや他分野との交流を目的とした特別講演のほか、企業ランチョンセミナーを開催し、大きな反響を得ることができた。また、本研究会の趣旨に賛同して頂ける企業各社から協賛金を独自に募り、それを学生の参加支援に充てることで、次世代を担う研究者の育成にも取り組んでいる。

本研究会のウェブサイト

<http://bioinfo.ie.niigata-u.ac.jp/MicroWakate/>

7. 若手の会の課題

学会や研究会、特に共通点を有する分野の若手の会が数多く存在する昨今、今後どのような趣旨のもと、どのような参加者をターゲットにして運営するべきかを検討す

る必要がある。特に、細分化された微生物系の研究会の共催の可能性についても議論する必要がある。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

若手研究者が活躍するために必要な具体的な研究活動の支援策や人事制度改革等の意見集約と提言。

日本顕微鏡学会 次世代顕微サイエンス若手研究部会

1. 若手の会名称

日本顕微鏡学会 次世代顕微サイエンス若手研究部会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

宮澤淳夫 兵庫県立大学 教授

3. 構成メンバー、人数

日本顕微鏡学会に所属する研究者・技術者

12名

4. 関連のある学協会名称

日本顕微鏡学会

5. 若手の会のミッション

最先端の顕微鏡サイエンスについて、次世代を担う若手研究者が物質科学と生命科学の学際的な視点から発信・交流する場を形成し産学の連携を深め、顕微鏡学の発展を図る

6. 活動内容

幹事会

6月4日（東京）、11月12日（東京）、12月29日（宮崎）

セミナー

NPO 法人総合画像研究支援・セミナー（6月4日・東京）

「生命科学の将来を築く若手研究者育成・支援策」

チュートリアル

日本顕微鏡学会・学術講演会（6月16日・仙台）にて

「生物を原子から理解するための技術革新」

アカデミック・ランチョンセミナー

日本顕微鏡学会・シンポジウム（11月19日・東京）

「若手研究者育成・支援策～調査研究から抽出された課題提起～」

7. 若手の会の課題

日本顕微鏡学会の会員、特に若手と言われる研究者・技術者の増大を

図るために必要なことは何か、学会として出来ることは何かを考え、実行すること。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

若手支援だけでは、若手育成はできない。

若手を指導する「指導者の育成」や、将来のキャリアパス支援、キャリアパスにおける男女共同参画など、関連する課題を総合的に捉えて、グローバルな視点から日本の若手を元気づけるために必要なことを、時期を逃さずに実施できるよう、国内の議論を盛り上げて欲しい。

日本行動科学学会若手の会

1. 若手の会名称

日本行動科学学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

高瀬 堅吉、自治医科大学、教授

3. 構成メンバー、人数

学会員（原則 45 歳以下）、コアメンバー5 名（その他、45 歳以下の学会員複数名）

4. 関連のある学協会名称

日本心理学会、日本行動医学会、日本行動分析学会 等

5. 若手の会のミッション

日本行動科学学会では、異常行動研究会時代の実験／臨床心理学のみならず、脳神経科学、精神薬理学、動物行動学、行動分析学など、さまざまな背景を持つ会員が、行動の総合科学を目指して、活発な研究活動を行っています。このような学際性豊かな学会において、他学会の若手研究者との積極的な人的交流、情報交換を推進することが本学会若手の会のミッションです。また、若手ネットワークへの参加を通じて、他分野の若手の会から得られる情報を学会全体へ還流することも役割としています。

6. 活動内容

昨年は、夏の年次大会および冬のカンファレンスで例年通り会合を持ち、行動科学学会に参加する若手同士で情報交換を行いました。

7. 若手の会の課題

学会の規模が小さいので、クイックネスを備えていることが特長ですが、その規模が災いして大きな活動（例、若手研究会の開催など）を行うことができていません。今後は学会の規模拡大と並行し、関連学会と連携しつつ、若手の会の規模を拡大したいと考えています。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

現在の方向性を維持しつつ、より活発な活動を行っていただきたいと思っています。

日本産業衛生学会 生涯教育委員会 若手研究者の会

1. 若手の会名称
日本産業衛生学会 生涯教育委員会 若手研究者の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
共同代表世話人
津野香奈美（和歌山県立医科大学医学部衛生学教室 助教）
和田耕治（国立国際医療研究センター国際医療協力局 医師）
3. 構成メンバー、人数
日本産業衛生学会会員歴 20 年以下の会員
世話人 13 名 総数 147 名（平成 28 年度）
4. 関連のある学協会名称
日本産業衛生学会
5. 若手の会のミッション
産業保健に関する研究活動について情報交換したり、学びを深めたり、同じ志を持つ仲間を見つけることを目的とする。
6. 活動内容
若手研究者の会メーリングリスト（ML）：若手同士の情報交換・共有の場
自由集会・シンポジウム：若手の実践家・研究者にとって役立つ知識の提供の場
若手論文賞：若手で頑張っている実践家・研究者を応援・表彰する場
産業保健研究ネットワーク（JOHRN）：論文の執筆を不安に思っている若手の実践家をサポートする場
7. 若手の会の課題
産業保健の研究は広い分野にわたるため、それぞれの専門家の交流を通じて研究内容を発展させること。
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
各分野の若手研究者の会について、最新の情報を共有していただきたい。

日本産業技術教育学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本産業技術教育学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

大谷忠，東京学芸大学，准教授

3. 構成メンバー、人数

日本産業技術教育学会に所属する会員の中で，主に 30 歳～45 歳を対象とするが，その他入会を希望する会員の登録も妨げない。人数：58 名

4. 関連のある学協会名称

日本産業技術教育学会

5. 若手の会のミッション

職種や地域，専門領域に拘らず，懇親を深めながら，技術教育に関する情報交換，横断的な連携研究が行える活動を目指す。

6. 活動内容

学会に所属する会員（大学教員，小学校・中学校・高校教員，企業に勤める若手社員等）が相互に研究テーマ等を持ち寄り，日頃の研究成果発表や情報交換を行っている。

7. 若手の会の課題

若手の会に所属する会員（大学教員，小学校・中学校・高校教員，企業に勤める若手社員等）が相互に研究課題を持ち寄り，互いの情報交換を通して，技術教育に関する総合的な研究課題に取り組む

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

学校教育における教科教育や関連する教科専門分野における他学会の会員との情報交換や広域的な科学技術に関わる教育問題に連携して取り組み，我が国における科学技術教育の若手教育研究の活性化を図ることを期待したい

日本サンゴ礁学会若手の会

1. 若手の会名称

日本サンゴ礁学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

樋口富彦、東京大学、特任研究員、
山崎敦子、北海道大学、特任助教

3. 構成メンバー、人数

教員・研究員・学生・企業やNPO法人職員など当会趣旨に賛同しサンゴ礁に関わる研究、職業、活動を行なっている方（年齢制限はなし）、約 100 人

4. 関連のある学協会名称

自然史学会連合、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会

5. 若手の会のミッション

上下関係を気にせずお互いフラットな関係で、若手が所属機関・分野を越えて自由に広く交流し議論できる場をつくる。日本サンゴ礁学会誌 第 16 巻に掲載された「日本サンゴ礁学会若手の会設立と今後の展望」（高橋ら，2014）を参照。学会公認組織として一定の責任を有しつつ、あくまで若手の自発的な活動および若手間のフラットで肩肘はらない交流を促進するための組織。会員の自発性を尊重し、その時々幹事やアクティブな若手によって柔軟に活動を行う。

6. 活動内容

年に数回セミナーや集会を実施。2016 年度は日本サンゴ礁学会年会内での自由集会「若手によるサンゴ礁研究の武器自慢」を企画・開催。他団体主催の企画にも積極的に出展（自然史学会連合主催自然史学会連合体験教室「沖縄からサンゴ礁がやってきた」や沖縄県サンゴ礁保全推進協議会主催サンゴ礁ウィーク 2017「沖縄のサンゴ礁研究最前線～サンゴは地味だが役に立つ～」など）。

詳細は、日本サンゴ礁学会若手の会ブログ

[\(http://coralreef-motto.blogspot.jp/\)](http://coralreef-motto.blogspot.jp/)に掲載。

7. 若手の会の課題

- ・継続的な会員の確保：卒業または修了後も研究職として当学会に残る会員は多くはないため、今後も新たに卒業研究などで学会に関わり始める新規会員を確保し、既存の会員との交流を続けていくことが一つの課題。
- ・本業との両立の難しさ：本業が忙しければ、もちろん若手の会の活動は消極化する。そのため、年によって活動量にばらつきが出る。結果、コンスタントに新たなメンバーを誘い、活動を継承することが困難になっていく。
- ・会員間の交流機会の確保：効果的な（将来的な協力関係の構築等々）交流機会を設けることも今後の課題。全国各地にメンバーが分散しているため、一堂に会することが難しく、会の目的や活動共有が一部の人にしか届かない（最大のサンゴ礁フィールドがある沖縄に若手研究者が多い傾向）。メーリングリスト、ブログサイト、SNS 様々な方法を駆使してはいるが、効果的に情報交換、イベント準備が行えるツールを模索している状態にある。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

- ・イベントの企画やメール配信等、気軽に参加できる異分野での情報交換ないし直接的な人材交流の促進。
- ・若手の会の運営方法の共有。

日本蚕糸学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本蚕糸学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

外川 徹、日本大学文理学部、准教授

3. 構成メンバー、人数

日本蚕糸学会に所属する 45 歳以下の若手研究者、大学院生および学部生
200 名

4. 関連のある学協会名称

日本蚕糸学会

5. 若手の会のミッション

- (1) 若手科学者ネットワークとの連携
- (2) 研究集会の開催
- (3) アピール活動
- (4) 研究費の申請
- (5) 書籍の出版

6. 活動内容

2016 年度は、日本蚕糸学会と共同で公開シンポジウム「次世代を担う若手研究者が語る昆虫科学の最前線 2017」を 2017 年 3 月に主催した。本会内外から若手研究者 4 名を招聘し、講演して頂いた。また、「カイコによる新生物実験(森精 編)」の改訂版に相当する書籍の出版に関して準備を進めている。出版社との調整は順調に進み、現在は具体的な内容および執筆者の調整を行っている。

7. 若手の会の課題

当該学問分野に興味をもつ若手研究者を増やすとともに、会員の研究の進展、研究意欲の向上に資する活動を行っていく。これにより、当該学問分野の活性化を目指す。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

他分野の学会との合同企画が円滑に行えるように橋渡しをしていただきたい。

日本心理学会若手の会

1. 若手の会名称

日本心理学会若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

鈴木華子、立命館大学総合心理学部、准教授

小川健二、北海道大学大学院文学研究科、准教授

3. 構成メンバー、人数

会員数：122名（2017年3月現在）

若手の会参加資格は、年度開始時に大学院修士課程もしくは博士課程在学中、もしくはその修了時点から10年以内の日本心理学会会員としている。若手幹事は10名で構成。

4. 関連のある学協会名称

公益社団法人 日本心理学会

5. 若手の会のミッション

心理学に関わる若手会員相互の交流促進と、幅広い分野間の研究・教育・応用の融合を目指して、若手の育成および将来の心理学の発展に寄与すること

6. 活動内容

【交流企画】

- 2016年国際心理学会(International Congress of Psychology)における若手向け企画（シンポ、ワークショップ、ソーシャル）の実施
- 第2回キャンプセミナー「異分野間協働懇話会」（合宿形式による研究・臨床交流会）
- 2017年次大会における若手企画の立案

【情報提供】

- 若手会員向けメーリングリストを通じた情報提供
- 毎月コラムリレーとして若手研究者による自身の活動紹介
- 季刊「心理学ワールド」にて定期的な会の活動紹介
- その他、若手の業績向上に資する活動

7. 若手の会の課題

- 活動の目的や内容を、どのように学会員に周知していくか
- 現在行っている活動に、どのように若手の会会員を取り込んでいくか
- 若手（学生および大学院修了時より10年）という限られた時間および流動性の高い時期に活動している幹事や運営委員たちが、どのように運営と活動を持続し、そして次世代へと継続していくか

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

専門分野を超えて若手研究者に関わる課題と日本の今後の学術界に関わる課題を共有し、学術界のみならず行政や社会に向けて高い発信力で提言していくこと

日本睡眠学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本睡眠学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

角谷 寛 滋賀医科大学医学部 睡眠行動医学講座 特任教授

3. 構成メンバー、人数

- ・若手（自称）研究者 世話人： 13名
- ・Facebook（非公開グループ） 登録者： 110名

4. 関連のある学協会名称

- ・一般社団法人 日本睡眠学会

5. 若手の会のミッション

- ・若手の睡眠研究者だけでなく、学生や異分野の研究者に対しても睡眠研究の意義や面白さを発信し、仲間を増やしつつ交流を深める。これにより、共同研究を促進するなどこれからの睡眠研究の発展に貢献する。

6. 活動内容

- ・合宿型ワークショップ「冬の学校」の開催
招待講演、グループディスカッション、プレゼンテーション、情報交換など。過去5回開催。
- ・日本睡眠学会定期学術集会における「Data Blitz」の開催
飲み物・食べ物を片手に各演題発表者が1分間限りの持ち時間で次々と発表内容を紹介するソーシャルイベント。過去5回開催。
- ・日本睡眠学会定期学術集会におけるシンポジウムの開催
過去1回開催。

7. 若手の会の課題

- ・如何に会員を増やすか。
- ・外部への発信を如何にするか。
- ・キャリア・デベロップメントにどう役立てるか
- ・共同研究の開始・継続をどう支援するか。

- ・ 会員相互の情報交換を如何に円滑で有意義なものにしていくか。
- ・ 運営の負担を如何に分担し、次の担当者に引き継いでいくか。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

- ・ 共通の課題を話し合いながら、学会や社会の情勢に対応した発信力を作り上げていけたらと思います。

日本生態学会キャリア支援専門委員会

1. 若手の会名称

日本生態学会キャリア支援専門委員会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

中坪孝之（広島大学、教授、キャリア支援専門委員会委員長）

3. 構成メンバー、人数

キャリア支援専門委員会委員 13 名、同オブザーバー 9 名

日本生態学会会員数 一般 2729 名 学生 1130 名（2016 年 12 月末現在）

4. 関連のある学協会名称

日本生態学会

5. 若手の会のミッション

キャリア支援専門委員会は、2010 年 10 月に発足した比較的新しい委員会で、①若手を中心とした研究者のキャリア支援と、②男女共同参画活動を 2 つの柱にしている。キャリア支援では、生態学を学んだ研究者が、社会のさまざまな分野で活躍できるよう、キャリア形成に関する情報収集や情報提供を行っている。

6. 活動内容

年次大会において「キャリア支援フォーラム」を実施して、民間企業や行政機関、NPO など、さまざまな分野の講師から話を聞く機会を設けるとともに、「キャリア支援ブース」（企業紹介ブースと企業パンフレット展示コーナー）を設置して、会員に対してキャリア形成に関する情報提供を行っている。

7. 若手の会の課題

本会では、キャリア支援活動と男女共同参画活動を相互に密接に関連する「車の両輪」として位置付けているが、委員会の中で掌握すべき事項は非常に多い。現時点では委員の献身的な協力によって、比較的スムーズに活動ができているが、今後も持続的に活動していくためには、新たな人材の発掘や育成が必要である。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること：

若手研究者、特に博士人材を取り巻く環境は非常に厳しいものがあり、その結果、博士課程進学者は激減している。このままでは、10 年後 20 年後の学問を支える人材が

いなくなることが憂慮されるが、その深刻さは社会に伝わっていない。若手科学者ネットワークには、この問題に対しての意見をとりまとめ、社会に発信することを期待したい。

日本生理心理学会 若手の会

1. 若手の会名称
日本生理心理学会 若手の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
玉越勢治
帝塚山学院大学 人間科学部
准教授
3. 構成メンバー、人数
WG メンバー4名, 研究会参加者約30名, ML 登録者約50名
4. 関連のある学協会名称
日本生理心理学会
5. 若手の会のミッション
日本生理心理学会を若手から盛り上げる
6. 活動内容
主として年に一度の研究会, その他情報交換
7. 若手の会の課題
若手育成とキャリア開発
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
若手研究者のキャリア開発

日本生理人類学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本生理人類学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

元村祐貴（もとむらゆうき）九州大学芸術工学研究院

3. 構成メンバー、人数

学会の大会開催に合わせて行われる研究会等に学生から若手研究者を中心として 40 名以上が参加

4. 関連のある学協会名称

日本生理人類学会（学会内に設置）

5. 若手の会のミッション

生理人類学を志す若手研究者が大いに語り合い、親睦を深め、研究活動の活性化を図る

6. 活動内容

- ・若手研究者発表会（年 2 回）…日本生理人類学会大会の前日に開催。当学会所属の若手だけでなく、周辺領域の若手研究者を招聘して最新の知見をご紹介いただき、広い視点を持った議論を展開する。2016 年度は大阪市立大学、和倉温泉観光会館で開催された。
- ・若手の会国際交流会（不定期）…国際生理人類学会に合わせて開催。上記の研究発表会の内容に加え、さらに現地の若手研究者との国際的な交流を目的とする。
- ・夏期セミナー（年 1 回）…セミナー内の若手の会企画として、学生・若手研究者の交流を深めるためにポスターセッションとワークショップを実施。セミナーでは講習会や本学会研究部会も行われている。2016 年度は京都にて開催。
- ・SNS (Facebook 内グループ、現在 41 名) による情報交換 ・専門書の抄読会

7. 若手の会の課題

若手研究者同士の交流を通じた個々の研究活動の活性化とともに、生理人類学の研究者としての基盤部分、および生理人類学全体に対して若手の会がどのように貢献できるか、今後さらに検討する必要がある。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

若手研究者全体の意見の集約、政策等への提言。(若手研究者の雇用問題など)

日本草地学会若手の会

1. 若手の会名称

日本草地学会若手の会

2. 代表者の名前, 所属機関, 職位等

吉原佑, 三重大学大学院生物資源研究科, 准教授

3. 構成メンバー, 人数

約 20 人 (世話人), 30 代の有職者 (任期付き含む)

4. 関連のある学協会名称

日本草地学会「草地学教育委員会」の下部組織として配置

5. 若手の会のミッション

草地学分野の若手研究者が一堂に会し, ざっくばらんに懇談して親睦を深め, 意見交換する場として「若手の会」を 2007 年春に発足した。

若手の会 Web ページ: <http://grass.ac.affrc.go.jp/wakate/wakate-index.htm>

6. 活動内容

夏合宿の開催

2016 年 9 月 23-24 日: 宮崎大学農学部附属住吉フィールドにて開催。参加者 21 名。

7. 若手の会の課題

- 草地学に携わる大学の研究室の減少とそれに伴う学生会員の減少。
- 若手研究者のスキルアップ (海外への進出, 学術論文の執筆)。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

草地学会では, かねてより若手研究者の交流の場が少ないことが懸念されている。さらに近年, 急速に学術研究の領域広がりつつある中で, 若手アカデミー委員会の活動においては, 異なる分野を専門とする若手研究者との交流の場を広げる機会として期待している。また, 若手研究者の就職先について情報共有したい。

日本畜産学会若手企画委員会

1. 若手の会名称

日本畜産学会若手企画委員会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

中村 隼明（基礎生物学研究・日本学術振興会特別研究員(PD)）

3. 構成メンバー、人数

博士研究員、助教、准教授など 11 名

4. 関連のある学協会

公益社団法人日本畜産学会 (<http://www.jsas-org.jp/index.html>) に属し、「若手奨励・男女共同参画推進委員会」の内部委員会として位置づけられています。

5. 若手の会のミッション

若手研究者主催のシンポジウムや懇親会を開催し、細分化され高度に専門化した畜産学分野の垣根を超えた会員の交流を図り、相互に補完することにより畜産学研究の進展に寄与することがミッションです。

6. 活動内容

日本畜産学会大会内で開催される本委員会主催シンポジウムでは、開催毎に委員会構成メンバーから中心となる世話人が選出され、世話人の主導により新進気鋭の若手研究者や、若手に負けない熱意を有する経験豊かな研究者に講演して頂いております。これまで、計 16 回のシンポジウムを開催しております（2017 年 4 月時点、<http://www.jsas-org.jp/wakate/pastactivities.html>）。若手研究者を対象とした懇親会も大切な活動のひとつで、畜産学分野における研究者間の新たなネットワーク形成の場を提供し、活性化に寄与しています。既に幾つかの共同研究が始まっているほか、学生会員から研究を中心とした相談も受けております。また、畜産学分野における若手研究者向けの読み物を HP に多数掲載しております（<http://www.jsas-org.jp/wakate/readings.html>）。

7. 若手の会の課題

若手の力でより魅力的な企画を行うことで、より多くの畜産学分野の研究者に参画していただくことです。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

異分野の若手の会のみなさまと有意義な情報交換を行うことで、今後の活動に活かしていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

日本農芸化学会 産学官若手交流会（さんわか）

1. 若手の会名称
日本農芸化学会 産学官若手交流会（さんわか）
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
大池 秀明 農研機構 主任研究員
3. 構成メンバー、人数
日本農芸化学会員の中から、産・学・官のそれぞれに所属する若手（年齢制限なし）
約 15 名が集まり幹事メンバーを構成
4. 関連のある学協会名称
日本農芸化学会（会員数約 1 万人）
5. 若手の会のミッション
次世代を担う人材の産学官ネットワーク作り
6. 活動内容
 - ・年に 3～4 回の勉強会や交流会の企画・運営
 - ・学会年次大会に合わせて開催される産学官学術交流フォーラムの企画・運営
 - ・さんわか紹介ホームページ
http://www.jsbba.or.jp/science_edu/sanwaka/
7. 若手の会の課題
旅費の都合上、地方での開催が難しい
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
セミナー・イベント情報の告知や、合同イベントの開催、若手会同士の交流

日本放射化学会 若手の会

1. 若手の会名称

日本放射化学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

坂口 綾、筑波大学、准教授

3. 構成メンバー、人数

登録制にしておらず人数は把握できておりません。

自称若手 であればどなたでも参加できることになっております。

4. 関連のある学協会名称

日本放射化学会

5. 若手の会のミッション

勉強会、交流

6. 活動内容

若手の会

開催日時：2016年9月10日(土) 18:00-

場所：新潟大学 五十嵐キャンパス 総合教育研究棟 B255 (A会場)

プログラム

1. 主催者あいさつ

2. 依頼講演

【講演内容】

講師：後藤 淳先生(新潟大学 研究推進機構 アイソトープ総合センター)

講演題目：「福島第一原発事故被災地で用いるための指向性がある自動車走行
サーベイシステム ASURA の開発」

3. 次年度の担当者決定と承諾、その他連絡

4. 若手の会 懇親会

7. 若手の会の課題

持ち回りで若手の会が年一回開催されているのみで、特に代表者や責任者がいません。
現状、惰性で続けられている部分も無きにしも非ずです。

(そもそも会に何か期待されているわけではない?)

2017年度は本学(筑波大学)が開催校であり、若手が集結する機会もあるので本件について話題提供を試みる予定です。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

先月登録させていただいたばかりで、あまり活動について把握していないのが現状です。申し訳ありません。せつかくですのでこれを期に、活動内容や貴会の活動理念等確認させていただければと存じます。

日本保健福祉学会若手の会

1. 若手の会名称
日本保健福祉学会若手の会
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
原田直樹 福岡県立大学 講師
3. 構成メンバー、人数
日本保健福祉学会幹事 10名
4. 関連のある学協会名称
日本社会福祉学会
日本社会福祉連合
5. 若手の会のミッション
保健医療，福祉領域の専門職，学生，研究者のスキルアップに寄与すること。
6. 活動内容
 - ・年数回の運営会議
 - ・年2回の研究セミナー開催
 - ・学会誌の編集事務
 - ・書籍等の出版企画
 - ・ホームページや会員MLを活用した情報発信
7. 若手の会の課題
 - ・学会の会員数の増加
 - ・投稿論文の質向上
 - ・保健福祉実践の場との連携
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
 - ・異なる専門領域の研究者との情報交換

日本南アジア学会月例懇話会

1. 若手の会名称

日本南アジア学会月例懇話会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

[若手科学者ネットワーク連絡担当者]

足立享祐

(東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門・特任研究員)

(会の代表は設置しておりません)

3. 構成メンバー、人数

(あいうえお順)

[幹事] 足立享祐

[幹事] 池亀彩 (東京大学東洋文化研究所・准教授)

[幹事] 梅村絢美 (日本学術振興会特別研究員 PD)

[幹事] 澤田彰宏 (拓殖大学非常勤講師)

4. 関連のある学協会名称

日本南アジア学会

5. 若手の会のミッション

南アジア地域を研究対象とする多分野にまたがる大学院生を含めた若手研究者に、研究発表の場を提供し、次世代を担う学際的な視野を持った研究者としてお互いに成長できることを目指している。

6. 活動の内容

月に一回程度、国内外の大学院生を含む若手研究者による研究発表の場として「月例懇話会」を実施している。

7. 若手の会の課題

現状では研究会会場が主として東京となっており、関東圏以外の若手研究者にとっては参加が難しくなっている。また、近年、南アジア研究においては社会科学が盛んな一方で、短期的には成果が出づらい、文学や哲学・思想、歴史学など人文科学系の研究者が減少傾向にあり、報告者の確保が難しくなっている。

最大の課題は、諸分野間の密接な連携・交流である。母組織である日本南アジア学会は、南アジア地域を研究対象とする学際的組織であるが、インド古典学に代表されるように、研究者はそれぞれのディシプリンに応じたより専門的な学会への参加に重きを置いているのが実情である。国際的水準に有る各分野の研究の蓄積を活かしつつ、異分野間の密接な連携・交流につながる契機を作り出すことが求められている。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

世代を問わず、キャリア形成途上の研究者が置かれている現状を正確に把握することが必要である。非常勤または任期付専任をはじめとする不安定な雇用、研究費負担という条件下におかれ、研究活動に専念することが難しい研究者は決して少なくない。萌芽的研究にも十分に目を配りつつ、これらの人材を国際的水準で活躍できるよう育てていく仕組みは学術の可能性を広げる上で重要である。

若手科学者ネットワークには、国内の関係諸学会や研究会を結びつけ、連名で要望・声明を出すなどして、上記の状況—特に雇用環境—の改善のために国に制度の変革や予算の拡充を求める活動を組織していただきたい。

日本溶射学会 若手の会

1. 若手の会名称

(一社) 日本溶射学会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

市川裕士

東北大学大学院工学研究科 助教

3. 構成メンバー、人数

日本溶射学会に所属する 40 歳以下の若手研究者，技術者。
約 50 名

4. 関連のある学協会名称

(一社) 日本溶射学会

5. 若手の会のミッション

溶射技術に関する若手研究者・技術者間の相互交流を促進し，技術や学術的知見を共有・交換することで，溶射技術の発展に貢献することを目的としています。

6. 活動内容

- ・日本溶射学会全国講演大会（年 2 回）に合わせた総会・見学会・講演会（勉強会）の実施。
- ・メーリングリスト，SNS を用いた会員間の情報共有。

7. 若手の会の課題

- ・参加者数が少ないこと。
- ・魅力的な組織・イベントの運営

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

本会は「溶射技術」という一つの工業技術を軸とした若手研究者，技術者の集まりです。溶射技術の対象とする産業，アプリケーションは多岐に渡るため学際研究のシーズを多く有しています。このシーズをうまく活用した学際的研究の創成と発展，さらにはイノベーションの創出に繋がるような他分野との活発な交流・技術の橋渡しに期待します。

農業気象学会若手研究者の会

1. 若手の会名称
農業気象学会若手研究者の会
2. 代表者の氏名、所属機関、職位等
臼井靖浩（うすいやすひろ）、
国立研究開発法人農研機構北海道農業研究センター、研究員
3. 構成メンバー、人数
農業気象学とその周辺分野の若手研究者および学生、約 100 名
幹事 3 名で運営
*若手会会員は日本農業気象学会会員であることが望ましいものの、広範な領域の若手研究者との交流を図るため、必ずしも学会員である必要はない。
*自ら若いと認めることが若手会入会資格である（年齢制限なし）。
4. 関連のある学協会名称、その関係
日本農業気象学会内の組織（1977 年創設）
ウェブサイト：<http://www.agrmet.jp/wakate/>
5. 若手会のミッション
若手研究者が農学・農業気象学のあり方や研究への抱負・不満について自由な意見を
交わし、若手研究者間の交流と切磋琢磨を図ること。
6. 活動内容
 - ・全国大会時の企画集会・懇親会の開催
2017 年 3 月 28 日企画集会
「農業気象分野研究における統計解析－実験計画法の理論と実践－」開催
(参加者約 80 名)、集会後に懇親会(参加者約 40 名)も開催。
 - ・メーリングリストによる議論・情報交換
 - ・ウェブサイトによる情報発信
7. 若手の会の課題
若手研究者数の減少

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

情報交換や議論等、また必要がある場合には、意見集約や合意形成などが行いやすい
枠組みとなること

農村計画学会若手ネット

1. 若手の会名称
農村計画学会若手ネット
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
齋藤朱未・同志社女子大学・准教授
3. 構成メンバー、人数
若手研究者，学生らを含め約 100 人
4. 関連のある学協会名称
農学系，工学系，人文社会学系で農山漁村地域問題を取り扱っている学協会
5. 若手の会のミッション
専門が異なる研究者や地域とのつながりの構築，学会活動に対するボトムアップ的活性化
6. 活動内容
年数回の座談会やポスター発表の企画，会員の調査地や知識等の情報共有活動
7. 若手の会の課題
若手人材の減少，活動予算不足
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
研究会やセミナーなどの企画を開き，学会等の垣根を超えた研究者のつながりの構築，共同研究プロジェクトなどへの発展を期待します。

微生物生態若手の会

1. 若手の会名称

微生物生態若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

五十嵐健輔 産業技術総合研究所 研究員

3. 構成メンバー、人数

微生物生態学に所属する若手研究者・学生、50人程度

4. 関連のある学協会名称

日本微生物生態学会

5. 若手の会のミッション

若手研究者・学生の研究交流や友好を深め、研究者のモチベーションを高めることで微生物生態学の発展に寄与することを目的としています。

6. 活動内容

毎年の学会大会にあわせた、独自の研究発表会や講演会などの企画を実施しています。近年は、学会大会での発表の前哨戦となるプレゼンテーションバトル、年長の研究者による最先端の研究や研究生活についての講演、そして懇親会などを行っています。

7. 若手の会の課題

- ・学会大会会期中の一企画として若手の会を開催していることから、時間的な制約が多く、複雑な企画を行うことが難しい
- ・若手の会を企画運営する幹事が頻繁に交代するため、活動の方向性と規模が変動しやすい

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

研究分野を超えた活発な交流により、互いに切磋琢磨できる仲間を見つけること、そして異なった研究環境・分野の多様さを知ることによって刺激される機会が得られることを望みます。

ビーム物理研究会 若手の会

1. 若手の会名称

ビーム物理研究会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

原田寛之(ハラダヒロユキ)

日本原子力研究開発機構 J-PARC センター

研究員

3. 構成メンバー、人数

ビーム物理学に関わる若手研究者・技術者らで構成される。

代表者1名、副代表者2名、広報担当者1名、名簿管理者1名、研究会担当者1名などで執行部を構成。

4. 関連のある学協会名称

ビーム物理研究会

日本物理学会 ビーム物理領域

日本加速器学会

5. 若手の会のミッション

ビーム物理学は、粒子加速器におけるビーム力学的物性研究を内に含み、ビーム・プラズマ相互作用、ビーム・レーザー相互作用、非中性プラズマ、光子ビーム、イオントラップなどの多様な分野を統合する概念である。

様々なビームは、物理学のみならず医学、薬学、工学の学術的研究に加えて、エネルギー、産業利用等の幅広い分野の研究基盤として利用されている。

ビーム物理学が支える科学技術の発展を目指し、次世代を担う若手研究者の交流を活性化させることを目的としている。

6. 活動内容

①研究会「ビーム物理研究会 2016・若手の会」の実施

会期：2016年11月24日～26日

(内、若手の会：25日PM～26日AM)

主催：高輝度光科学センター(JASRI)

講演数：招待講演 3 件、口頭発表 17 件、ポスター発表 15 件、レクチャ 1 件
(内、若手の会：口頭発表 8 件、ポスター発表 15 件、レクチャ 1 件)

参加数：37 名 (内、若手の会：34 名)

②「ビーム物理研究会・若手の会」の組織化の提案

日時：2017 年 3 月 18 日

会場：大阪大学 豊中キャンパス

会議名：日本物理学会第 72 回インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会総会)

参加者数：25 名

7. 若手の会の課題

- ①「ビーム物理研究会・若手の会」の組織化
- ②体制、会則、活動方針の具体化

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

- ①若手世代の要望の国への提言
- ②他分野の若手研究者・若手技術者間のネットワーク形成の機会

溶接学会 若手会員の会

1. 若手の会名称

溶接学会 若手会員の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

藤井 啓道，東北大学 大学院工学研究科 材料システム工学専攻，助教

3. 構成メンバー、人数

概ね 35 歳以下の学会員が対象。その中から運営委員が 46 名（大学・公設試 26 名，企業 20 名）

4. 関連のある学協会名称

日本金属学会，日本鉄鋼協会，軽金属学会，日本溶接協会，軽金属溶接協会

5. 若手の会のミッション

本会の目的は，溶接・接合分野に携わる若手の技術者・研究者間のネットワークを形成し，個々のメンバーがネットワークを通じ，より円滑に業務を推進できるような環境を整備することにあります。若い人の集まりらしく，知的好奇心と遊び心を大切に，とにかく自由で肩肘を張らない活動を行うことがモットーです。

6. 活動内容

- ・年に 3 回程度の研究会・見学会の開催
- ・分野の垣根を超えた若手勉強会の開催
- ・国際的なネットワーク形成を目的としたグローバルネットワーク活動
- ・全国大会におけるイブニングフォーラムの実施およびポスターセッションの運営協力
- ・学会誌『溶接学会誌』における「じょうほう通」，「溶接タマゴ」，「私の溶接履歴」への寄稿
- ・年 2 回の運営委員会の開催

7. 若手の会の課題

- ・溶接・接合分野の活性化，人材育成
- ・若手会員の取り込みと次世代への継承

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

分野の垣根を超えた研究者・技術者のネットワークの強化により、円滑な合同企画の実施や学際的な研究プロジェクトの提案に結びつくことを期待しております。

若手音声研究ネットワーク

1. 若手の会名称
若手音声研究ネットワーク
2. 代表者の名前、所属機関、職位等
川原繁人、慶應義塾大学言語文化研究所、准教授
3. 構成メンバー、人数
4. 関連のある学協会名称
日本音声学会
5. 若手の会のミッション
6. 活動内容
7. 若手の会の課題
8. 若手科学者ネットワークに期待すること
小さな学会ですので、若手研究者をいかに増やし、ネットワークを構築していくか学ばせていただきたいと思います。

Japan National Young Water Professionals



Japan National
Young Water Professionals

1. 若手の会名称

Japan National Young Water Professionals (Japan-YWP)

<http://www.japan-ywp.site/index.html>

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

山村 寛 中央大学 准教授

小野寺 崇 国立環境研究所 主任研究員

3. 構成メンバー、人数

教育・研究機関、官公庁・自治体、民間企業に所属する水関連の若手の組織。会員数は381名（平成29年1月16日時点）。平均年齢は33.8歳。所属別の割合は、大学・研究機関：37.0%、官公庁・事業体：23.1%、民間39.9%。運営委員は20名（学生3名を含む）。アドバイザーは3名。

4. 関連のある学協会名称

International Water Association (IWA)、日本水環境学会、日本水道協会
(YWPはIWA日本国内委員会の下部組織)

5. 若手の会のミッション

Japan-YWPは、日本水環境学会、日本水道協会等と密接な連携をとりながら、上下水道・水環境に関連する分野の学術的研究・知識の普及・水環境保全への積極的な貢献を目的とした若手中心の組織。教育・研究機関、官公庁・自治体、民間企業に所属する水関連の若手が広く集まることで、分野・職種間の交流を促進し、水問題に関する様々な情報交換を行うプラットフォームを構築。また、他国のYWPとも交流を行うことで、若手の国際ネットワークを広げることなどがミッション。

Goal: 若手の視野拡大、異業種間の交流、人脈の構築、問題意識の共有、最新の研究成果の共有、活動の全国化、国際化、若手の人材確保など。

6. 活動内容

<セミナー等の企画>

- ・平成28年度第1回 JWRC 水道講座（2016.6.27、東京/日本語、開催協力）

- ・ Japan-YWP 第 5 回国際シンポジウム「若手研究者の国際キャリアの育成を考える」
(Water and Environment Technology Conference 2016) (2016. 8. 27、東京/英語)
- ・ 平成 28 年度第 2 回 JWRC 水道講座 (2016. 10. 11、東京/日本語、開催協力)
- ・ Japan-YWP 下水道セミナー「GAIA と GAM の取り組み紹介」 (2016. 10. 27、東京/日本語)
- ・ 海外水道フォーラム (日本水道協会全国会議)「持続可能な水道事業に向けてー各国における人材育成の取組ー」 (2016. 11. 10、京都/英語・同時通訳付)
- ・ お仕事セミナー (学生向けの水分野の仕事内容の紹介) (2016. 11. 12、東京/日本語)
- ・ 第 5 回イブニングセミナー (YWP 会員による発表と意見交換) (2016. 12. 14、東京/日本語)
- ・ 第 7 回 Japan-YWP 総会兼セミナー (2017. 1. 21、東京/日本語)
- ・ IWA particle separation グループの若手研究者との意見交換会 (2017. 2. 17、札幌/英語)
- ・ ワークショップ「水環境工学の未来を探る」 (日本水環境学会年会) (2017. 3. 14、熊本/日本語)
- ・ セミナー「水俣病公式確認から 60 年-水俣の未来に向けて-」 (日本水環境学会年会) (2017. 3. 15、熊本/日本語)
- ・ 水俣見学ツアー～水俣病公式確認から 60 年～ (日本水環境学会年会) (2017. 3. 18、水俣/日本語)

< 広報活動等 >

- ・ メーリングリストを通じた会員間の情報共有
- ・ HP を通じたイベント等の情報提供
- ・ ニュースレターの発行 (年 3 回)
- ・ 学会等におけるポスターの掲示

7. 若手の会の課題

- ・ 年会費が無料であるために収入がなく、活動資金がほとんどないこと。
- ・ 本来業務が多忙な会員は、セミナー等への参加が限られること。
- ・ セミナーの開催が東京や学会開催地に限られるため、全国的な活動が難しいこと。
- ・ 運営委員は、若手 (35 才以下) が 1 期 2 年 (再任あり) で務めるため、学生や若手会員の継続的な確保が必要であること。

8. 若手科学者ネットワークに期待すること

- ・ 若手組織の円滑な運営に関するノウハウの共有。
- ・ 若手組織間における最新情報の共有や活動の連携。
- ・ 日本の学会・協会全体における若手の活動の推進。

おわりに

2016 年度も若手科学者ネットワークの活動にご協力いただきまして、ありがとうございました。お蔭様で「アニュアルレポート 2016」を取りまとめることができました。2016 年度は、ネットワーク登録団体の代表者が一同に会して研究発表による異分野交流を行う「第一回若手科学者サミット」を開催いたしました。若手研究者が分野や所属を超えて広くつながりをもって研究活動を行うことは、日本の学術全体にとって大きな意味をもちます。「若手科学者サミット」と少し大仰なネーミングになりましたが、名前負けしないように、今後しっかり運営していく所存です。一方で、2014 年 9 月に日本学術会議のホームページ上で報告した「若手研究者ネットワークの継続的運用に向けて」(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140916.pdf>) で述べられているように、ネットワークの参加登録団体数が少ないことが課題になっていました。2016 年度は、ネットワーク参加団体を増やすべく、広く学協会へ呼びかけてきたところ、2017 年 4 月初旬時点で、200 以上の団体にご登録頂きました。その中には、若手の会の設立を検討中である団体も含まれていますが、このネットワークへの参加を契機に若手の会が新たに設立されることは、分科会にとって喜ばしい限りです。また、若手アカデミーにとっても、若手研究者のネットワークは若手研究者問題における情報収集や問題提起を行う上で非常に重要だと認識しております。

若手科学者ネットワークにご登録頂いている皆様には、今後ともご理解の上、ご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017 年 4 月

日本学術会議 若手アカデミー
若手科学者ネットワーク分科会
副委員長 井藤 彰

分科会の連絡先：admin-network@youngacademy-japan.org